

全国助産所分娩基本データ収集システム2017 集計結果報告

安達久美子

I. はじめに

2013年4月より、全国助産所分娩基本データ収集システム（以下IT）が開始されました。本稿では、2017年分を報告します。データ分析期間のITの利用者は、本会所属の助産所の77.6%でした。

II. 集計方法

2017年1月1日～12月31日の間に出産し、ITシステムに登録されたデータのうち助産所、自宅出産となった3,341件のデータを対象としました。データの未入力、途中で転院になった者等は除外しています。

III. 集計結果

1. 妊産婦の背景

分娩歴は、初産婦658人（19.7%）、経産婦が2,683人（80.3%）でした。1回経産婦が1,427人（42.7%）で最も多く、次いで2回経産婦が880人（26.3%）でした（表1）。

平均年齢は、初産婦29.6（±5.2）歳、経産婦33.1（±4.5）歳でした。2016年とほぼ同様でした。初産婦では35歳未満が82.4%で、経産婦では60.1%で、これも前年とほぼ同様でした。

2. 妊娠期について

初診時の妊娠週数は、16週が最も多く9.2%で、次いで15週が5.9%、20週までで68.4%を占めました。予定日の算出にあたっての根拠は、最終月経のみ23.9%、超音波のみ55.3%、両方20.8%でした。これらも、前年と大きな違いはありませんでした。

妊娠中に何らかの異常が認められたのは、初産婦8.8%、経産婦8.7%であり、2016年度と大きな差はありませんでした。異常の項目では、切迫流早産が最も多く3.6%、母子感染の危険性が3.5%でした。この内、33週以降のGBS検査で陽性であったものが、全体の3.2%で、前年度より1%減少していました。貧血（Hb9.0/dl未満）は0.6%でした。

3. 分娩期について

分娩場所については、助産所92.1%、自宅6.0%でした。また、オープンシステムは1.9%でした（n=3,405）。分娩場所の割合については、2016年とほぼ同様でした。

経産婦におけるリピーター（前回も同じ助産所で出産）の割合は40.8%でした。

分娩所要時間の平均は、初産婦12時間43分、経産婦5時間51分でした。初産婦で30時間以上を要したのは5.0%、経産婦で15時間以上を要したのは2.6%でした。分娩時の妊娠週数は、39週が最も多く36.8%、次いで40週が32.5%でした。37週未満が0.3%、

表1 分娩歴

経産回数	件数	%
0	658	19.7
1	1,427	42.7
2	880	26.3
3	283	8.5
4	64	1.9
5	19	0.6
6	8	0.2
7以上	2	0.1
合計	3,341	100

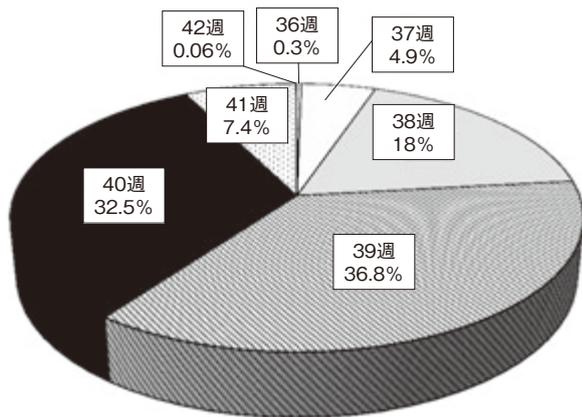


図1 分娩週数

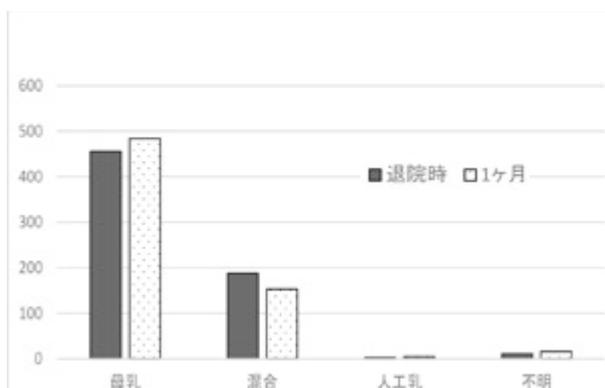


図2 児の栄養方法別の人数（初産婦）

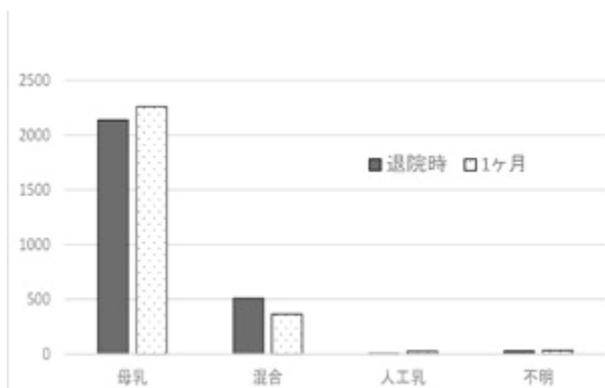


図3 児の栄養方法（経産婦）

42週以降が0.06%でした（図1）。

前期破水は、初産婦14.4%、経産婦8.5%でした。分娩時の平均出血量は、初産婦で371ml、経産婦で344mlでした。分娩時の出血量が500ml以上であったのは、初産婦で20.4%、経産婦で17.7%でした。前期破水、分娩時出血も前年と同様の結果でした。

会陰裂傷は、初産婦では、無40.4%、I度42.9%、

II度13.8%、III～IV度0.5%でした。経産婦では、無64.3%、I度28.1%、II度7.1%、III～IV度はありませんでした。膣壁裂傷は、初産婦2.3%、経産婦0.4%でした。

分娩時の家族立会い（複数回答）は、夫82%、子ども48%、実母20%、その他10%でした。

4. 新生児について

出生時の児体重の平均は、男児3,170（±358）g、女児3,059（±335）gでした。

出生5分後のアプガースコアは、8点以上が99.6%でした。

出生直後の児の異常は1.8%でした。呼吸障害（多呼吸・陥没呼吸・呻吟・鼻翼呼吸・シーソー呼吸・不規則な呼吸・その他）が最も多く0.9%でした。次いで、外表異常が0.3%で、髄膜瘤、鎖肛など緊急手術を要するような児は1件でした。

5. 栄養方法（図2.3）

退院時の児の栄養方法は、初産婦で母乳のみが69.3%、混合28.6%、人工乳0.5%、経産婦で母乳のみが79.7%、混合19.0%、人工乳0.2%でした。産後1ヶ月の時点では、初産婦で母乳のみ73.6%、混合23.3%、人工乳0.8%、不明2.4%、経産婦では、母乳のみ84.2%、混合13.6%、人工乳0.9%、不明1.2%でした。

IV. まとめ

前回（2016年1月～2016年12月）までの3,734件のデータと比較して、大きく変わったところはありませんでした。

分娩データ数は、2015年が4,154件、2016年が3,734件、2017年が3,341件となっており、年々減少の傾向にあります。

日本助産師会では、現在システムのリニューアルについて検討を行っています。システム上の制限やコスト、個人情報の問題などの制約はありますが、助産所の皆様の声を少しでも反映できるようにとします。

なお、データの入力は分娩後半年まで可能としており、前年度のデータが確定しますが、翌年の7月末となっておりますことをご承知おきください。